

かい ぎ ろく
会 議 録

| | | | | | |
|------------------------|--|------------------|----|-------------------|---|
| かいぎ めいしやう 会議の名称 | へいせい ねんど だい かいこまきしたぶんかきやうせいきやうぎかい 平成26年度 第3回小牧市多文化共生協議会について | | | | |
| かいさいにちじ 開催日時 | へいせい ねん がつ にち ごご じ ぶん 平成27年3月3日(火) 午後7時～8時20分 | | | | |
| かいさいばしよ 開催場所 | 301 会議室 | | | | |
| しゆつせきしや 出席者 | ○出席者 【委員】 さわき いんちやう ちいきかっせい かいぎやうぶ じちやう つばい いん さいれんじ 澤木委員長 (地域活性化営業部次長)、坪井委員、西連寺 委員、みやた いん うえはらい いん ひ が いん かきはらい いん いもと いん 宮田委員、上原委員、比嘉委員、柿原委員、井本委員、 も は め ど し や ー き る い いん あおやま いん おおしま いん なかの いん モハメドシャーキル委員、青山委員、大島委員、中野委員 (小牧警察署)、坪谷委員 (小牧市国際交流協会) | | | | |
| およ 及び けつせきしや 欠席者 | 【事務局】 たけいちかちやう がんどうかかりちやう かわぞえし ゆじ 武市課長、丸藤係長、川副主事 ○欠席者 なし | | | | |
| ほうちやう かひ 傍聴の可否 | <input checked="" type="checkbox"/> 可 <input type="checkbox"/> 否 | ほうちやうていん 傍聴定員 | 10 | ほうちやうにんずう 傍聴人数 | 0 |
| かいぎしだい 会議次第 | 1 開会 2 あいさつ 3 内容 (1) 前回の振り返り (2) 小牧市多文化共生推進プランについて 4 その他 | | | | |
| といあわ さき 問合せ先 | こまきしやくしよ ちいきかっせい かいぎやうぶ していぶろもーしょんか 小牧市役所 地域活性化営業部 シティプロモーション課 にぎわい創出係 | | | | |
| かいぎないやう 会議内容 | べっし さんしやう 別紙1参照 | | | | |

せんぶきろく ようてんきろく
全部記録 要点記録

| かい 会 | ぎ 議 | ない 内 | よう 容 |
|--|--------|---------|---------|
| <p>1. 開会 市民憲章唱和</p> | | | |
| <p>2. あいさつ 澤木委員長 今年度最後の多文化共生協議会になるが、多文化共生推進プランの話し合いをしていきたい。2011年3月に多文化共生推進プランが策定されてから、市民、企業、行政が一体となって多文化共生推進に向けて取り組むことができた。今日は、その進み具合や内容について、皆さんと一緒に考えていきたい。</p> | | | |
| <p>3. 内容 (1) 前回の振り返り</p> | | | |
| <p>事務局：川副 前回の会議では、災害時多言語表示シートの作成、多文化共生推進パンフレットの作成、多文化共生推進プランについて話し合いをしていただいた。 災害時多言語表示シートについては、外国人の方が多く住む地域の避難所に設置をしたいと考えている。 多文化共生推進パンフレットの作成については、11月15日号広報と同時に各家庭に配布した。地元などで必要な場合はシティプロモーション課までお問い合わせいただきたい。 多文化共生推進プランの話し合いでは、自治会の活動について話し合いをしていただいた。自治会では、外国人の方が参加しやすい工夫を行っていたり、実際に家を訪ねて情報を提供しているといったお話しをお聞きした。 しかし、一方、外国人の方も本当は自治会の活動に参加してみたいと思っはいるが、仕事や学校の活動が忙しくて参加できない人もいた。といったお話もあった。 今日の会議では、前回の内容をふまえて、さらに話し合いを進めていきたいと考えている。</p> | | | |
| <p>(2) 小牧市多文化共生推進プランについて 事務局：丸藤 多文化共生推進プランは、2011年度に策定され、5カ</p> | | | |

年の計画となっており、今年度は4年目の2014年度にあたる。今年度は挑戦することの見直しや実行する人への評価を行い、2015年度は改訂プランの検討と策定を行うこととなっているため、2015年度以降、新しいプランが必要かどうかも含めて、ご意見をお聞きしたいと思う。

プランでは、めざすことが5つ定められていて、1つ目は「一人ひとりの防災対策が100点のまちにします」と防災の目標が掲げられている。2つ目は「自治会の活動への参加を増やします」と地域の目標が掲げられている。3つ目は、「正しいごみの出し方を知りごみの減量をめざします」、4つ目は、「子どもたちの「多文化共生」を応援します」、5つ目は、「国籍・民族・文化・言葉などお互いの「ちがい」を学びます」として、5つの目標が設定されている。

市役所・会社・自治会などの実行する人に、めざすこと①から⑤の内容の進み具合を調べた。2013年度と2014年度を比べると大きな変化はなかった。

この多文化共生協議会は、プランの検証をすることになっているので、皆さんのお話をお聞きしながらめざすことを1つずつ確認していきたいと思う。

めざすこと①の防災対策は、人の命にかかわる大切なことであり、日ごろから地域の住民同士が顔見知りであることが重要なポイントである。東日本大震災であったり、御嶽山の噴火などは記憶に新しいと思うが、特にこの地域は、大規模な地震の可能性が指摘されているため、防災対策については、引き続き取り組んでいく必要があると考えている。ご家庭で防災対策をしている方のご意見をお聞きしたい。

モハメドシャーキル副委員長 食料などの最低限のものを持ち出せるようにして、ヘルメットを壁にかけている。

上原委員 バッグに水や食料などを準備して、家族でどこに避難するか話している。

事務局：丸藤 水や食料などの非常時に持ち出せるように準備しておくことや家族でどこに避難するかなどを確認しておくことは非常に重要なことである。

坪谷委員 小牧市国際交流協会では、防災訓練を行い、どんなものが必要かを確認して、バッグに入れて、その重さを体験したりした。ま

た、防災訓練を実施する場合、広報などでお知らせするので、皆さんもぜひ参加していただきたい。

坪井委員 企業として従業員のために防災対策のチラシを配布して啓発を行うとともに、災害時に誰でも飲み物が取り出せる自動販売機に取替えた。

事務局：丸藤 多文化共生推進プランの8ページで小牧市国際交流協会が実施する防災訓練の様子を紹介しているが、こうした体験を一人でも多くの外国人市民に体験をしていただきたいと思います。来年度以降も防災対策の取り組みを続けていきたい。

めざすこと②では、自治会活動について書いてある。自治会という組織がない国で育った外国人市民にとって、その役割を理解するのは時間が必要である。みんなが小牧市民の一員として、地域の活動に積極的に参加することは自治会の活動を知る良いきっかけになる。自治会に参加する市民が多くなることで誰もが助けあって笑顔で暮らせるまちになると考え、自治会活動への参加を掲げている。

前回、この協議会のなかで、仕事や学校活動が忙しくて自治会活動に参加できないという意見もあったが、プランでは自治会の加入率を上げることが本当の目的ではない。自治会活動に参加をしていただき、活動を通して、お互いを知ってもらいたいという願いが込められている。自治会で外国人市民と交流する工夫があればお聞きしたい。

宮田委員 誰にでもあいさつや声がけをするようにしている。外国人の方に自主防災の役員をお願いしているが、最初から難しくしないように、活動をしながらかその内容を知ってもらいたいと考えている。

事務局：丸藤 どうしたら外国人の方に自治会活動に参加してもらえるかご意見をお聞きしたい。

柿原委員 言葉がわからないと難しいと思う。ブラジル人同士でサッカーやバーベキューをしたり、教会に通っていることもあり、自治会への参加が難しくなっていることもあると思う。

事務局：丸藤 自治会への参加が難しいとの話であったが、実際に日本では、自治会を中心に地域が動いている事実もあるため、自治会を通して、外国人の方と日本人の方のつながりができると良いと思う。

めざすこと③には、ごみについての目標が掲げられている。小牧市の外国人市民の状況は、リーマンショックをきっかけにかなり減った

が、約7,000人の外国人が生活をしている。最近では、中国、フィリピンなどアジア系の方も増えていて、新しく小牧に引っ越してくる方もいる。そのような状況で、ごみのルールはしっかりと伝えていかないといけないと思うが、日本のごみの出し方についてどう思われているかご意見をお聞きしたい。

比嘉委員 今年度、住んでいる地域のごみの担当になっている。私のほかにも何人か外国人の方が住んでいるが、なかには分別されていないものもある。市役所からごみの出し方についての説明書をもらっても、細かくて難しいのかもしれない。私もどう伝えていけばいいかなや悩んでいる。

事務局：丸藤 きちんと伝えることが大事で、市役所としても翻訳をしたり、DVDを作ったり、なるべくわかりやすいように紹介しているが、わかりにくい、めんどくさいといったことがあり、伝わっていない部分もあるため、粘り強く伝えていくことが大事だと考えている。

井本委員 中国では捨てるのではなく売っていた。日本では売るところがないと思う。他の地域ではもっと分別の種類が多いところもある。

事務局：丸藤 これからもわかりやすく説明を続けていきたいと思う。めざすこと④では、子どもたちの教育、多文化共生について書かれている。子どもの教育、多文化共生はこれからの多文化共生のまちづくりを考えていくうえで非常に重要なことであり、引き続き取り組んでいく必要があると思うが、小牧の子どもたちの教育についてご意見をお聞きしたい。

青山委員 外国から日本に来て、日本語もわからずに日本の学校に入ってもあまり勉強が進まないと思う。先生やボランティアの方もいるが、対応できていない。私の甥っ子は中学の時にフィリピンから日本に来ているが、なかなか中学校の授業を理解できなくて、高校進学もできなかった。高校に行けないと希望する会社の就職も難しいので、国としても外国人の教育、労働のことにしっかり取り組んで欲しい。

大島委員 外国人の子どもだけでなく、全ての子どもが将来を担うので、教育は絶対に必要である。土台がしっかりしていれば、将来に繋がっていく。多文化共生は、交流の視点から始まることが多いが、最近では日本生まれ、日本育ちでも外国にルーツをもつ子どもたちが育ってきている。

事務局：丸藤 めざすこと⑤として、国籍・民族・文化・言葉など、お互いの「ちがい」を学びます、として目標が掲げられている。まとめのような目標となっていて、一番大事なことであると思うが、この内容について皆さんのご意見をお聞きしたい。

中野委員 警察として、外国人を雇っている会社などに行き、交通安全教室などを行っているが、全ての会社に対して行っているわけではなく、依頼のあった会社に行っている。文化の違いなどもあり、どこまで広められるかわからないが、今後とも続けていく。

西連寺委員 多文化共生は短期間で一気に進めることは難しい。行政から押し付けられても受け入れる側とのギャップがあると思う。外国人市民と日本人市民がお互いを理解して、地道に進めていかないといけない。他の地域の話を知ると、トラブルもあるようだが、例えばごみの問題は外国人の方が多く住む地域だけの問題ではなく、日本人も同じであると思う。皆で話し合いをしながら、できるところから取り組んでいきたい。

事務局：丸藤 今日は委員の皆さんと一緒に、めざすこと①から⑤の確認をさせていただいた。今年度が多文化共生推進プランの5年計画の4年目にあたる。来年度が最後の年となるが、この内容を今後も継続していくか皆さんのご意見をお聞きしたい。

澤木委員長 皆さんの話を聞きすると、プランの中身については特に問題はないように思う。新しいプランを作るのではなく、引き続き今のプランに沿って、多文化共生を進めていくことを、多文化共生協議会のまとめとしたいがどうか。

(異議なし)

4. その他

事務局：丸藤 他にご意見があればお聞きしたい。

青山委員 外国人市民のボランティア育成などの事業があると良い。

上原委員 ところが滋賀県の国際交流協会では働いていて、小学校でペルー料理を作ったり、ペルーの文化を伝える活動をしているので、小牧でもそういった事業ができると良い。

坪谷委員 小牧市国際交流協会では、毎年各国の料理教室を行っているが、最近ではペルーの料理教室を行った。

澤木委員長 私も参加したことがあるが、料理を通じてお互いの国の

文化を学ぶ良い機会であると思う。

大島委員 リーマンショックの影響もあると思うが、ラテンコミュニティの生活が安定していなくて、メンタルの相談も多い。教会に助けられている外国人も多いと思う。

青山委員 日本語教室の授業の一部に、ごみ出しのルールや防災に関する説明を行うなど、情報を伝えられると良い。

坪谷委員 小牧市国際交流協会の公共マナー教室で、防災やごみ出しの仕方を学べるようにしているので、そういった場所も活用してもらいたい。

モハメドシャーキル副委員長 個人的な考えだが、外国人も自分で努力しないといけない。私も自分に必要なこと、やりたいことは努力してきた。

澤木委員長 シャーキル委員が言われることも大切だと思うが、いろいろな方がお見えになると思う。少しでも早く日本の文化に慣れていただきたいと思う。

上原委員 私は大城小学校のサッカークラブでボランティアをしていたが、小牧はスポーツグラウンドが少ないと思う。パークアリーナは抽選になっていてなかなかグラウンドがとれない。学校なども開放してもらえると良い。

澤木委員長 公共の施設は数が限られている。小学校や中学校の体育館やグラウンドについては、それぞれにスポーツ振興会があるので、地元で聞いてもらえると良い。

西連寺委員 多文化共生については同じような問題を抱えている地域がほかにもあると思うので、他の地域の事例を研究していくと良いと思う。

事務局：丸藤 小牧市は外国人が多く住む地域で結成される外国人集住都市会議に加盟している。外国人集住都市会議の加盟市町の中で、情報交換をしたり、小牧市だけで解決できない問題については、国や県、経済界などに対して提言を行っている。小牧に活用できる事例があれば取り入れていきたいと考えている。

澤木委員長 委員の皆さんからたくさんのご意見をいただいた。そのご意見を参考にしながら小牧市の多文化共生を推進していきたい。

事務局：丸藤 来年度も引き続き、多文化共生推進プランを支える組織と

してきょうぎかい協議会かいさいの開催よていを予定している。今こんご後もさまざま様々な面めんでご相談そうだんさせていただきたいおもと思う。